

中部山岳国立公園

公園計画の変更 (一部変更)

ご説明の流れ

1. 中部山岳国立公園について
2. 今回の変更(一部変更)について
3. パブリックコメントの対応について

ご説明の流れ

1. 中部山岳国立公園について
2. 今回の変更(一部変更)について
3. パブリックコメントの対応について

中部山岳国立公園の概要

上高地



立山



日本を代表する傑出した山岳景観
～息をのむ山並みと渓谷美、そしてライチョウの世界に～

乗鞍

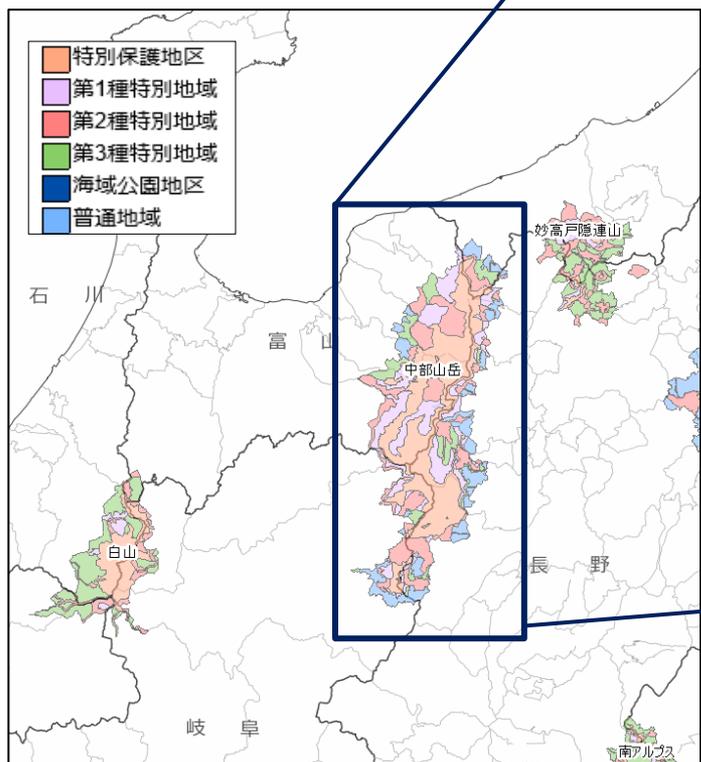


後立山



中部山岳国立公園の概要

- 指定：昭和9年12月4日
- 面積：174,323ha



● 風景形式

北アルプス一帯を占める我が国を代表する山岳公園で、昭和9年に誕生した最初の国立公園の一つ。

大規模に切り立った岩壁、深く険しい溪谷、高山帯のお花畑やライチョウ、夏まで残る雪渓や氷河が削ったU字谷、火山が作りだした湖や溶岩台地など、多彩な山岳景観を呈している。

● 見直しの経緯

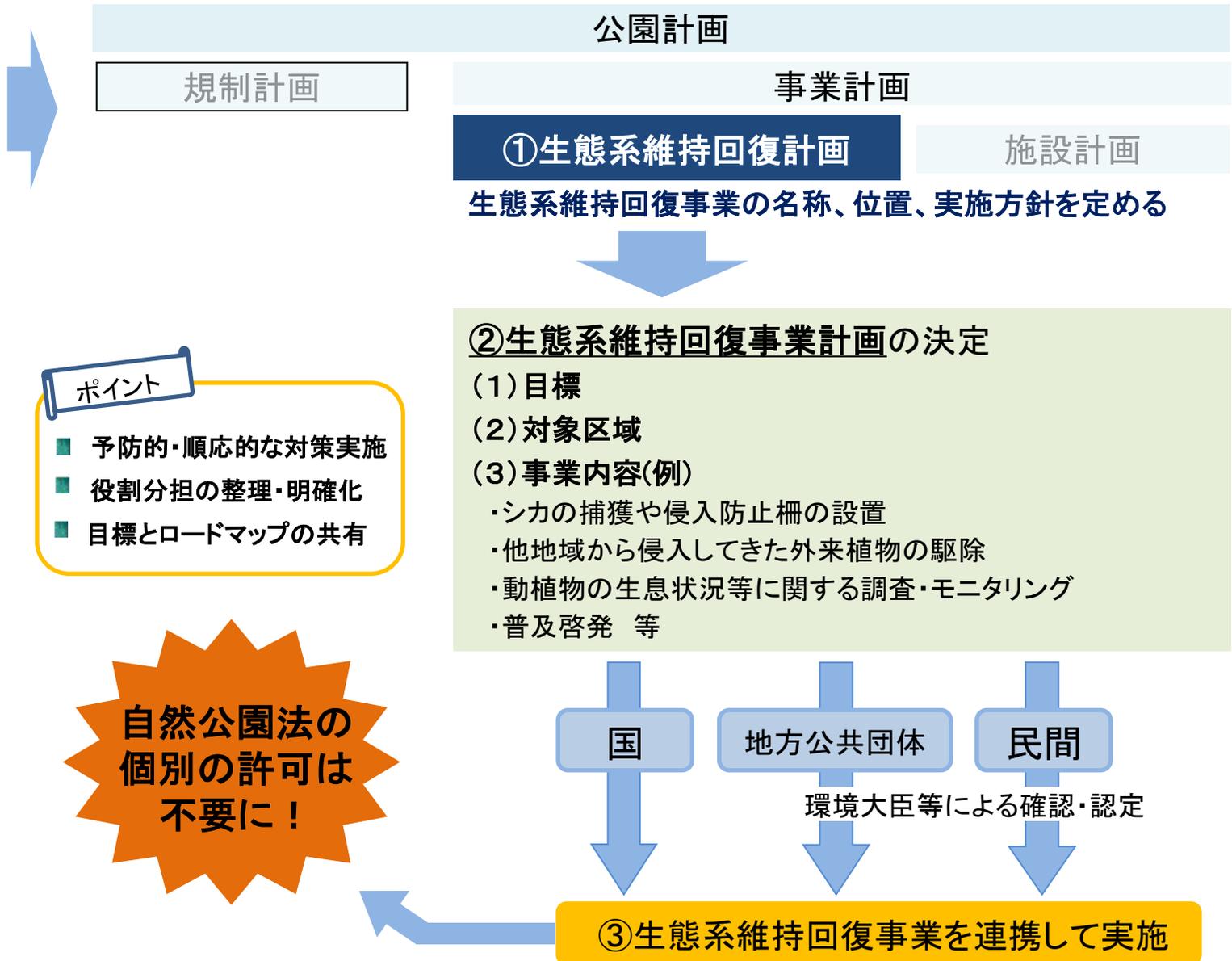
昭和9年12月4日 指定
 昭和59年6月15日 再検討
 平成4年7月14日 第1次点検
 平成18年1月19日 第2次点検

ご説明の流れ

1. 中部山岳国立公園について
2. 今回の変更(一部変更)について
3. パブリックコメントの対応について

生態系維持回復事業について

ニホンジカの食害や外来植物の侵入等によって、国立・国定公園内の生態系が衰退し、優れた自然の風景地へ影響が生じている、または予想される【平成21年・自然公園法改正】



今回の変更のポイント

中部山岳国立公園におけるニホンジカに係る対策としては、

- 平成24年度に**中部山岳国立公園野生鳥獣対策連絡協議会**が設置され、
- 平成25年3月には、総合的にシカ対策を進め、公園本来の生態系の保全を図ることを目的として**中部山岳国立公園ニホンジカ対策方針**が策定された。

以降、協議会では、対策方針に基づき実施された植生被害や、シカの侵入状況についてのモニタリング調査結果から、本国立公園内におけるシカの生態系の影響について、リスク評価等を行なっている。

- 令和4年度からシカの侵入と定着が確認されている上高地で試験捕獲を開始
今後、より積極的に事業を実施するため、生態系維持回復計画を策定する。

●生態系維持回復計画の策定

- ✓ 分布が拡大するニホンジカの生態系への影響に対応する
 - 生態系維持回復事業の追加
対象地域：中部山岳国立公園（全域）

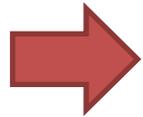
生態系維持回復計画の追加

○生態系維持回復計画の追加

位置：中部山岳国立公園全域

事業の実施方針：

中部山岳国立公園では、ニホンジカの個体数増加及び生息域拡大が確認されており、高山・亜高山帯等において植生や動物相の攪乱が生じることが懸念されている。これらのニホンジカによる生態系への影響を未然に防止し、健全な生態系の維持を図るため、ニホンジカの防除や植生の保護等の対策を実施する。また、事業の効果を検証するため、ニホンジカの分布状況等の調査及びモニタリングを実施し、より効果的な事業実施に向けて調査研究及び実証試験を行う。



事業内容については、生態系維持回復事業計画において詳しくご説明



ご説明の流れ

1. 中部山岳国立公園について
2. 今回の変更(一部変更)について
3. パブリックコメントの対応について

パブリックコメントの実施結果

■ 概要

- ・ 実施期間 令和5年4月13日（木）から5月12日（金）

- ・ 意見募集の結果 【意見提出数】

電子メールによるもの	計1通（5件）
郵送によるもの	計0通
FAXによるもの	計0通
今回の変更案にかかるもの	計5件